

令和6年5月27日

山口市長
伊藤 和貴 様

山口商工会議所
会頭 河野 康志

山口県農業試験場の跡地利用に関する要望について

山口市におかれましては、これまでも地域経済を支える中小企業や小規模事業者への重要なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

既に令和4年10月27日に「山口県農業試験場の跡地利用に関する意見・要望（別添-1）」を提出し、山口県農業試験場跡地（以下、「試験場跡地」）を山口都市核の周辺市街地である都市拠点としての機能・役割分担をお願いしておりましたが、この度、試験場跡地の有効活用に関し、山口商工会議所（以下、「本所」）より要望書を提出させていただきます。

本年3月に「サウンディング型市場調査の結果を踏まえた農業試験場跡地利用の検討状況について」が公表されました。この調査結果は、大内地域の課題解決を踏まえた「未来のまち」を創造する提案がなされたものと考え、山口県及び山口市の持続的な発展に大いに寄与する跡地活用になることを期待しております。

一方で、30年前に大規模商業施設が大内地域に進出し、中心商店街の通行量が半減し、その後百貨店が経営破綻するなど甚大な影響があったことから、この度、山口市商店街連合会から要望書(別添-2)が本所へ提出されました。消費活動の拠点が大内地域に移動し、これまで取り組んできた中心市街地のまちづくりに影響を及ぼすのではとの懸念になっています。山口・小郡都市核の中でも中心商店街は山口市の消費の大きな拠点であり、中心商店街と連携できる、バランスのとれた大内地域の開発が望ましいと考えております。

人口減少の影響を受けながらも、山口市は持続可能な発展を目指し、中心市街地の活性化に向けて様々な取り組みを行っておられます。山口市のコンパクトシティ実現はまだ途上にある中で、大内地域における試験場跡地利用が中心市街地の活性化を確保しつつ、山口県及び山口市の発展に大いに寄与できるよう、本所も知恵を絞って参りますので、下記項目につきまして、貴市の格段のご配慮、ご支援をお願い申し上げます。

記

1) 中心商店街と大内地域とが連携できる形での民間活力の導入検討

雨水排水対策や道路整備などの**基盤整備**は、県と市が連携され、早期実現が望まれます。水路や調整池、区画道路の整備と併せて、敷地東西軸の道路の拡幅や都市計画道路の整備を並行して行うことで、**雨水排水対策**と**交通渋滞対策**を同時に進めて頂きたいと考えます。

また、かねてからの地域の要望でもある、大内地域の交流・活動拠点の整備に関しても、早期実現が望ましいと考えます。

一方で、「すべての子どもに開かれた遊び場・学びの場の機能」や、「子育て世代をはじめ幅広い世代を惹きつける体験機能」などの機能の導入においては、事業性確保のために広域集客を伴う運営体制が敷かれることが推測されます。消費活動の拠点としての中心商店街と、大内地域とが連携できる形での民間活力導入となりますよう、県・市で構成されている検討協議会において、鋭意検討をお願いします。

2) 長期的な視点での整備計画

雨水排水対策や交通渋滞対策が最優先課題であること、そして県有地であることを考慮し、まずは雨水排水対策及び大内地域交流活動施設の整備までを実施することを希望します。近年の梅雨時期の大雨の影響は年々大きくなっており、現在検討されている調整池等の雨水排水対策が十分な対策となるかどうかの検証を行政においてしっかり行うなど、長期的な視点（約10年程度）で検討し、山口市全体、さらには山口県の発展に寄与する民間活力の導入をお願いします。

以上

(別添-1)

令和4年10月27日

山口市長
伊藤 和貴 様

山口商工会議所
会頭 河野 康志

山口県農業試験場の跡地利用に関する意見・要望について

山口市におかれましては、平素より地域経済を担う中小企業・小規模事業者に対し多大なる御支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、令和5年4月に「農林業の知と技の拠点」(防府市)に移転・統合される山口県農業試験場跡地について、山口市の主要計画等に基づくまちづくりの方向性を踏まえ、地域が抱える諸課題や地元要望を踏まえた施設や機能の導入に向けて「農業試験場等跡地利用検討協議会」にて検討が進められているところです。

山口市大内地区は、高次都市機能の集積・強化等を進めている山口都市核を中心とした山口都市拠点の中でも、防府市との幹線ルート沿いに位置し、居住誘導区域として人口を集積させる重要なエリアとなっています。新しいライフスタイルを提案するモデル地区として、跡地利用には経済界も大いに期待しています。

一方で、**山口都市核**と**小郡都市核**を中心としたエリアは、高次の都市機能や生活関連機能が集積する都市拠点と位置付けられており、本所においても両都市核への公共施設や商業機能の集積により経済の効率化、活性化が期待できるコンパクトシティを推進してきました。両都市核における人口は増加傾向に転じ、さらに中心商店街においては空き店舗率が10%を切るなど、コロナ禍でも出店希望者が途絶える事無く、とても注目を集める状況となっております。官民一体となった個性あふれる地域づくりの長年の努力がようやく実を結び始めた所です。今後この流れを途絶えさせること無く、さらに強化していくためにも、とりわけ山口都市核を支える都市拠点としての大内地区においては、高次都市機能や生活関連機能の集積が図られるような、新しい取り組みへのチャレンジも進めて頂きたいと考えております。

就きましては、別添のとおり山口県農業試験場跡地利用について、意見書(要望)を提出させて頂きたいと存じます。貴市の格段の御配慮、御支援をよろしくお願い申し上げます。

記

1) 山口都市核の周辺市街地である都市拠点としての機能・役割分担

日本各地で大型商業施設の出店が急増し、地元商店街による大型商業施設の進出反対運動が激しさを増していた時代を経て、大規模小売店舗法の改正、商工会議所に設置される商業活動調整委員会による出店調整、大店法に WTO 協定違反の疑い等を経て、まちづくり 3 法の一部として商業施設の立地に関する法律(大規模小売店舗立地法)が整備されてきた。山口市においても平成初期に郊外大型商業施設の進出に伴い、中心商店街の空洞化が進み、各店舗はきわめて厳しい環境に置かれた。このような経緯を踏まえ、大内地区には広範囲から集客する大型商業施設ではなく、都市拠点として生活関連機能の充実を図って頂きたい。

また、農業試験場跡地には若者・子育て世代を惹きつけ、豊かなコミュニティが幅広い世代で広がるような、山口の未来を牽引する施設や機能の充実を図り、大内地区全体の居住環境としての魅力を高め、山口都市核を支える都市拠点として、都市機能の充実につながるよう検討して頂きたい。

2) 諸課題対応

県道山口防府線等の慢性的な渋滞を解消する道路拡張などの施設整備、昨今の豪雨による水害も多発するエリアであり、治水対策など安心して生活できる事業を優先し整備して頂きたい。

渋滞対策については、例えば、周辺道路の機能強化や住宅用道路と施設利用道路エリアの分離などによる道路整備について検討して頂きたい。

治水対策については、例えば、農地を部分的に活かした治水機能の維持について検討して頂きたい。また、その農地を就農体験などに活用して頂きたい。

3) 新しい取り組み

スマートシティ、脱炭素といった先進的であり、持続可能な社会を目指すうえで大きな社会実験ができるエリアであることを踏まえ、チャレンジングな取り組みを推進して頂きたい。

例えば、先進インフラ実証地域として脱炭素、防災・防犯など備えたインフラの確保やスマートシティモデル地域としての取り組みについて検討して頂きたい。

以上

(別添-2)

令和6年5月7日

山口商工会議所

会頭 河野 康志 様

山口市商店街連合会

会長 川口 雄一郎

山口県農業試験場跡地利用に関する意見、要望について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素から、当会の活動につきまして、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当連合会では、貴所をはじめとする関係団体のご協力のもと、中心市街地活性化にむけた事業活動を推進しております。

中心商店街では、30年前に大内地域へ大規模商業施設が進出した際に、中心商店街の百貨店が破綻するなど極めて大きい影響を受け、商店街通行量の減少や、空き店舗数が増加し、厳しい状況となりました。2007年より山口市中心市街地活性化基本計画が策定、実行され、基本計画3期目となる現在は、出店希望者のニーズに柔軟に対応することで空き店舗数を10%未満に抑えており、商業集積地としての魅力向上し、また、併せて賑わい創出を行うことで、基本計画の着実な成果につながっているものと考えております。

中心市街地が賑わうことで若手起業家の出店も増え、また、商店街内の経営者の世代交代が進むことによって若手経営者が多く育ち、若い人たちが前向きに街づくりに取り組み、中心市街地活性化につながる好循環が生み出されつつあります。また、本年1月には、NYタイムズ紙に、山口市が「2024年に行くべき52カ所」に、日本で唯一選ばれ、記事の中では活気に満ちた商店街があり、若い経営者ががんばっていることがあげられました。記事作成者のクレイグ・モド氏が後に述べられた様に、山口市の将来に必要なのは持続可能性であり、今のまま繁栄できるような社会基盤等の維持が重要だと思ふ旨を述べられたことは、我々としても大変喜ばしく感じつつ、これからも引き続き、中心市街地の街づくりを継続して行っていくことが重要と再認識したところです。

しかしながら、山口県農業試験場跡地利用に係る、山口県、山口市が実施した「サウンディング型市場調査の結果を踏まえた農業試験場跡地利用の検討」について、消費活動の拠点につながる大型施設の設置を行うことは、これまでのまちづくりの取り組みや、山口都市核づくりの考え方と異なると認識しています。

試験場跡地の利用方法は、大内地域の住民の皆さんにとって極めて重要なことであることから、大内地域に求められる機能、役割と、中心商店街・中心市街地に求められる機能、役割は、お互いに尊重し共存したうえで、より魅力的な山口都市核づくりを実現し、山口市全体の魅力向上につなげていくべきものと考えております。

つきましては、山口県、山口市へ計画の再考をお願いいたしたく、貴所からのご支援賜りたく存じますので、何卒よろしくお願い申し上げます。